

R7. 2. 28

佐倉市

教育センターだより

Vol.65

令和7年2月28日発行／佐倉市教育センター／TEL.043(486)2400 <https://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/kyoikucenter/index.html>

指導方法をアップデートする

佐倉市教育センター所長
神成 裕尊

私は、犬を飼っています。犬種はパグで、3歳の男の子です。よく食べ、運動をあまりしないため、まあまあ太っています。顔はパグ独特の顔をしています。個人的にはとてもかわいく感じており、帰宅するたびに抱きしめながら頬ずりをしています。さて、犬を飼い始めた頃、室内で一緒に生活するために、家でのルールを教える必要がありました。そのため、いくつかの犬のしつけ方に関する本を買って読んでみましたが、共通しているポイントが4つあることがわかりました。それは、①体罰をしないこと ②大きな声で怒らないこと ③できたことに対しては大いに褒めてあげること ④できない時は、できるまで何度もやり直しをすること、でした。実は、私は小学生の頃にも犬を飼っていて、その頃は犬がよくない行動をしたときは、「ダメ!」「いけない!」「ノー!」など大きな声で怒鳴るように注意をしたり、必要に応じて鼻を叩いたりして行動を改めさせました。いわゆる昭和の犬のしつけ方ですね。このしつけ方ではありましたが、この頃に飼っていた犬も覚えてほしいことはきちんと覚えてくれました。しかし、今振り返ると、その犬は怒鳴られないように、叩かれないように、いつも私たち人間の顔をうかがっているような節が多々あったように思います。反省ですね。令和の犬のしつけ方は、怒ることよりも褒めること。できないことは、待ちの姿勢で、できるようになるまで練習することです。犬のしつけ方は確実にアップデートされています。

さて、佐倉市教育センターは、調査研究や不登校対応等、様々な業務があります。その業務の一つに相談業務というとても大切な業務があります。相談者のほとんどは小中学校に子供を通わせる保護者ですが、まれに子供から相談されることもあります。相談内容は就学相談や特別支援教育に関すること、友人とのトラブルやいじめ問題など、多岐にわたります。最近、増えてきているのが、先生との関係や先生からの指導についてです。前号でも記述しましたが、私は教育行政に携わる人間として多くの学校を訪問し、先生方が集団を指導しつつ、可能な限り個別にも指導・支援していることを承知しています。学校は、家庭や地域をめぐる環境の多様性や急激な変化に対応しなくてはならず、先生方が抱える課題はさらに複雑かつ困難化しており、先生方の負担は増えるばかりです。そのような状況下にも関わらず、丁寧な指導を行う先生方には頭が下がる思いです。しかしながら、相談件数はさほど多くはないかもしれませんが、確実に増えているのが先生方に関連する相談内容です。

文部科学省は、小学校段階から高等学校段階までの生徒指導の理論や考え方、実際の指導方法のあり方を令和の時代に合うようにアップデートした「生徒指導提要」を我々に示しました。その中でも懲戒についてこのように記されています。

【懲戒のポイント】

- ・学校における教育目的を達成するために、教育的配慮の下に行うこと
- ・組織的に指導の方向性や役割分担を検討すること
- ・児童生徒の特性や信条に寄り添いながら本人や関係者の言い分をしっかりと聴くこと
- ・必要な情報を収集し、事実関係の確認を適正に行った上で指導すること
- ・指導後においても、児童生徒を一人にせず、心身の状況の変化に注意を払うこと
- ・保護者等の理解と協力を得られるようにしていくこと

とあります。そして、それと共に不適切な指導と考えられ得る例も掲載されています。おそらく、以前は適切と思われていた指導方法が、たとえ子供のために一生懸命に行っているとしても、現代では不適切な指導と捉えられてしまうことがあるかもしれません。

生徒指導提要全てを読むことは時間がかかりますので、自分で大切であると感じる項目のみを確認するだけでも構いません。忙しい勤務の合間にご自身の指導方法を振り返っていただくとともに指導に対する考え方や指導方法をアップデートしていただければ幸いです。先生方の適切な指導により、全ての子供たちが笑顔で学校生活を送ることを引き続き期待しています。

学校図書館の役割と佐倉市の取り組み

学校図書館は、学校図書館法に規定されており、図書館資料を収集・整理・保存し、児童生徒及び教員の利用に供することによって、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童生徒の健全な教養を育成することを目的としています。

学校図書館の機能

校 長：学校図書館の館長
司 書 教 諭：学校図書館を活用した教育活動の企画・運営
学校図書館司書：学校図書館運営の支援

連 携

公共図書館
図書
ボランティア

<読書センター>

- ・児童生徒が、自由に好きな本を選び、静かに読みふける。
- ・様々な本を紹介して、読書の楽しさを伝える。

図書委員会

<学習センター>

- ・児童生徒の学習を支援する。
- ・授業の内容を豊かにして、理解を深める。

子供の居場所

<情報センター>

- ・児童生徒や教職員の情報ニーズへの対応。
- ・児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成する。

教員のサポート

学校図書館～読書したくなる取組の紹介～

図書委員のおすすめ



先生方のおすすめ



学校図書館司書のおすすめ



行事と関連のある図書の紹介



本が
読みたくなる



興味関心が
広がる
興味関心を
深める

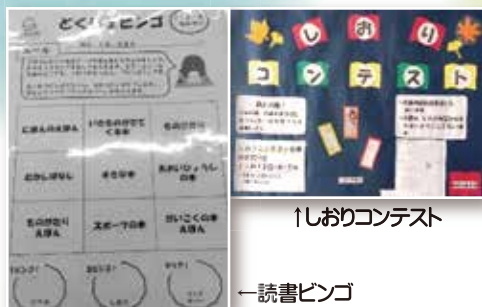
昨年度と今年度の
貸出冊数を比較する掲示物



授業と関連のある図書の紹介



新しく入った本の紹介



教諭・司書・委員会で協力した読書イベント



新聞の一面記事を掲示

読書活動は、言葉を学び、想像力を高め、主体的に生きていくために、欠くことのできないものです。そして、学校図書館は、自由な読書活動の場として、学びの場として、児童生徒の成長を支える重要な拠点です。佐倉市はさまざまな役割・職務に基づき、連携・協力することで、学校図書館がよりいっそう活性化するように努めています。

令和6年度 全国学力・学習状況調査

4月18日に全国学力・学習状況調査が実施されました。結果より、佐倉市の児童生徒の学習状況について全国と比較しながら、特徴と現状分析と改善のヒントについてまとめました。

小学校

《特徴と現状分析》



国語

- ・読むこと（思考力・判断力・表現力）、選択式の問題形式の正答率が良好である。
- ・言葉の特徴や使い方に関する事項において、課題がみられる。漢字は一文字を答える問題においては全国平均より高かったが、二字熟語になると低くなる傾向がある。

算数

- ・数と計算、図形、変化と関係の領域、選択式の正答率が良好である。
- ・基礎的な見取り図に関する問題や、速さと距離から時間を求める問題については理解をしているが、応用的な図形や変化の関係を求める問題において課題がみられる。

《改善とヒント》

国語

- ☆他者へ伝えるときには、**複雑な構文を避けた表現**になっているか、**聞き手や場面の状況を踏まえた発言**になっているかなどを意識するように指導する。
- ☆当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする**習慣を身に付ける**とともに、当該学年に配当されている漢字を文や文章の中で**徐々に**使うようにする。

算数

- ☆図形を構成する要素に着目し、**底面や側面という用語**を用いて角柱の性質について説明できるようにする。**底面の形の違いに着目**し、底面が三角形の場合は三角柱、四角形の場合は四角柱、五角形の場合は五角柱となることや、側面の形は全て正方形や長方形であることに気付くことができるようにする。
- ☆場面や目的に応じて、**単位時間あたりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間**として速さを捉え、速さを比べることができるようにする。

中学校

《特徴と現状分析》



国語

- ・思考力・表現力・判断力等における「話すこと・聞くこと」を求める問題では、文章中における話し合いがどのような段階にあるのかを捉えながら読み取ることができている。
- ・短歌に関する出題については全体的に課題が見られる。特に表現の技法や短歌の描写について理解を深める必要がある。

数学

- ・「数と式」「関数」の基礎的な問題において成果が表れている。
- ・四分位範囲について複数の集団のデータの分布から展開される問題において理解を深める必要がある。

《改善とヒント》

国語

- ☆図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、示されている図表などが、**文章のどの部分と関連している**のかを確認するなどして、**書き手の伝えたい内容をより正確に読み取る**こと、図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを考えさせる。
- ☆短歌や俳句などは、限られた音数の中で情景や心情を伝えるために表現が工夫されていることを踏まえ、**描写の仕方や表現の技法**などに着目する。

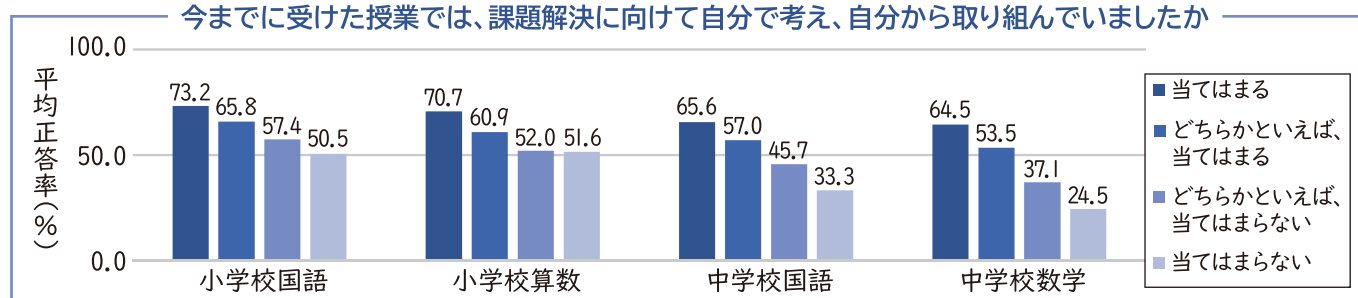
数学

- ☆**データの分布の傾向**を読み取って判断し、その理由を**数学的な表現**を用いて的確に説明できるようにする。箱ひげ図を比較する場合には、**判断の理由**を箱の位置や四分位数などを根拠として説明できるように指導する。
- ☆問題の条件を変えて、文字式を用いて**簡潔かつ明瞭**に表現することによって、事象の仕組みを的確に捉えられるようにする。

《児童生徒質問紙と学力のクロス集計より》

「今までに受けた授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対し、肯定的な回答をした児童生徒（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる）において、平均正答率が高い傾向にありました。課題に対して自分で考え、自ら取り組むことを日頃から習慣としていくことが大切です。

今までに受けた授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか



不登校児童生徒支援について

ルームさくら(教育支援センター)と学校の連携

ルームさくらとは

様々な心理的な要因により、不登校状態の児童生徒への積極的な支援を行うために、市の教育支援センターとして、ルームさくらがあります。

ルームさくらでは、誰一人取り残されない学びを保障することを目的に、児童生徒の個々の状態に応じ、段階的な支援を行っています。自己肯定感の醸成、人間関係の改善・向上、自主性の育成、集団生活への適応力等を養うことにより、社会的に自立することを目指しています。



小学校・中学校

連携

ルームさくら(教育支援センター)



佐倉教室

ヤングプラザの2階にあります。小・中の3つの部屋があり個室対応が可能です。



志津教室

西志津ふれあいセンターの2階にあります。明るく開放的な教室です。



ルームさくらでは、通級者の学習や普段の様子を定期的に学校に報告しています。年に2回、学校訪問をして、教育センターとルームさくら、学校の先生方で話し合いをもち、情報を共有し、今後の支援の方向性について話し合っています。

子どもの登校に悩んでいる親の会

『子どもの登校に悩んでいる親の会』を11月に西志津ふれあいセンターで開催しました。当日は15名を超える参加があり、市の不登校対策の取り組みの紹介や、グループでの話し合いを行いました。会の終了後、希望される方に、ルームさくら志津教室の見学会を行いました。

2月には、ルームさくら佐倉教室でも実施し、たくさんの保護者が参加されました。



佐倉市不登校相談機関紹介リーフレット

教育センターでは、「不登校相談機関紹介リーフレット」を作成しています。リーフレットには、不登校児童生徒のための相談や学習の場、保護者の方を支援する様々な制度やサービスを紹介しています。

- ① 不登校に関する相談窓口
- ② 不登校児童生徒の学びの場、居場所
- ③ 不登校の保護者交流の場



興味がある方は、是非ご利用ください。

(https://www.city.sakura.lg.jp/material/files/group/62/R6futoukou_leaflet.pdf)

学校が苦手な児童生徒の保護者の方へ

不安や困りごと、ありませんか？

学校に行きたがらない

- 学校から帰ってくるいつも疲れている
- 学校に行こうとすると頭やお腹が痛くなる
- 家や自分の部屋から出たがらない

心配な状態が続いている

- ゲームやSNSに没頭して昼夜逆転している
- 学習の速度が遅れ、学校の授業についていけない
- このままでは、将来、進学や就職できないのでは

子どもへの接し方が分からない

- 子どもに学校に行くよう働きかけてよいのか
- 学校に行かない理由を聞いてよいのか
- 理由を聞いてもよく分からない／答えがらない
- 家庭学習を続けるべきか
- 誰にも相談できない



一人で悩まないでください

不登校は問題行動ではありません。誰にでも起こり得ることです。お子さんや保護者の方の周りには、様々な支援の輪が広がっています。不登校等学校が苦手なお子さんの保護者の方の相談先などをご紹介します。